

富士市立神戸小学校
学校だより読書旬間号
令和5年10月23日

神戸っ子



小中一貫教育目標
「自分らしくともにかがやく」
令和5年度重点目標
「よし やってみよう!!」

もみじ読書旬間 10月23日(月)～11月10日(金)



9月30日(土)の神戸大運動会では、温かい応援をありがとうございました。10月に入ってようやく涼しくなり、子供たちは11月15日(水)の全校リレー会を励みに元気よく運動しています。

神戸小の玄関には、地域の方から届けられた季節のものが飾ってあります。「神戸の恵みのコーナーが良いですね。」とお客様に褒めていただくことも多いです。また校内には、CSDであり、SSS(スクール・サポート・スタッフ)でもある方が、季節感のある掲示でこまめに環境を整えてくださっています。今は、職員の似顔絵コーナーもハロウィン仕様になっています。



左の写真は、学校図書館の机の上です。時間内に借りられなかった子供には、後で学校司書が本バッグに入れて、学級に届けています。犬に関する本を2冊借りている子、シリーズものを続けて借りる子、おすすめの最新刊図書からジェンダーに関する絵本に挑戦しようとする子・・・子供の選んだ本を眺めていると「頭の中に思考の地図が広がっている」「興味関心が湧いている」と思います。「読みたい本がある」その気持ちは生活を豊かにしてくれます。

10月23日(月)から11月10日(金)は、「もみじ読書旬間」です。前期の学校評価における「読書を楽しむ」の質問項目に、子供は82.5%が肯定的な回答をしているのに対し、保護者は45.7%、教師は44.4%と、大きなずれがありました。子供たちは読書を楽しんでいるのに、保護者や教師から見ると、「個人差があり、読書の習慣が身に付いていると感じられない」のではないかと分析します。本校の学校図書館は、子供にとって居心地がよく、読書の意欲がわくような仕掛けがたくさんあるすてきな環境になっています。「もみじ読書旬間」では、図書委員会がスタンプラリーカードや各学級で取り組むパズルを用意して盛り上げます。また、学校司書が、学校図書館で借りた本に限らず、子供の読書の記録を残すことを進める「本ガチャ」という楽しい企画をしました。校長は、好きな本やページ、言葉について話をしてくれた子に「レインボーしおり」をプレゼントします。自分から話し掛けられない子には、こちらから話し掛けて、全校児童に渡します。

スタジオジブリの宮崎 駿さんが、「生まれてきてよかったんだ、と子どもにエールを送るのが児童文学」と、岩波新書発行「本へのとびら—岩波少年文庫を語る」で語っていらっしやいます。そんなエールを送ってくれるような本に出会える読書の秋になるとよいです。



神戸小自慢の図書館 読みたくなる仕掛けがいっぱい

読み聞かせボランティアさん